

(社) 精密工学会 知的ナノ計測専門委員会

2006年度(第1回)総会議事および資料

日 時 2006年6月16日(金) 15:00~16:00
場 所 東京大学工学部2号館2階211教室

1. 開会
2. 配布資料の確認
3. 議事
 - 1) 委員長の選出
 - 2) 会則(案)の審議(資料1)
 - 3) 役員(顧問および幹事等)の指名(資料2)
 - 4) 2006年度事業計画(案)の審議(資料3)
 - 5) 2006年度収支予算(案)の審議(資料4)
4. 質疑応答
5. 閉会

配布資料

1. 会則(案)
2. 役員(顧問および幹事等)リスト(案)
3. 2006年度事業計画(案)
4. 2006年度収支予算(案)
5. 参考資料
 - 5-1. 2006年度事業計画書(設置前に精密工学会へ提出したもの)
 - 5-2. 知的ナノ計測分科会 成果報告書
 - 5-3. 特別講演会および懇親会のご案内
 - 5-4. 秋季大会シンポジウム「製造現場を支える形状計測」
 - 5-5. 科学研究費 ナノスケール生産基盤におけるコア計測技術に関する企画調査
 - 5-6. 会員名簿(予定)および勧誘予定企業リスト(案)
 - 5-7. パンフレットのたたき台
 - 5-8. ホームページ(www.nano.pe.u-tokyo.ac.jp/nanomeasure/)
 - 5-9. ISMTII2007関係資料

特別講演会および懇親会

主催: 精密工学会 知的ナノ計測専門委員会

共催: 科学研究費 ナノスケール生産基盤におけるコア計測技術に関する企画調査

特別講演会 16:00~18:00

「知的ナノ計測の将来」 清野慧(東北大学)

「ナノフォトリクスのもたらす光技術の質的変革と将来」 大津元一(東京大学)

懇親会 18:30~20:00

工学部2号館 2階展示室 参加費3,000円(当日徴収)

資料2

(社) 精密工学会 知的ナノ計測専門委員会

委員長，顧問，幹事，会計監事，事務局（案）

委員長： 高増潔（東京大学）

顧問： 清野慧（東北大学）
三好隆志（大阪大学）
沢辺雅二（ミツトヨ）
下河辺明（東京工業大学）

幹事： 高谷裕浩（大阪大学）
高偉（東北大学）
笹島和幸（東京工業大学）
高辻利之（産業技術総合研究所）
古谷涼秋（東京電機大学）
高橋哲（東京大学）

会計監事： 林亮（ナノ）

事務局： 高橋哲（東京大学）

2006年度(2006年2月1日～2007年1月31日)事業計画(案)

(資料5-1および資料5-2参照)

1. 総会ならびに特別講演会を開催する(2006年6月16日)(資料5-3)
2. 知的ナノ計測に関する研究会および見学会を開催する(詳細計画は運営委員会で検討)
 - 精密工学会秋季大会でのミーティング(2006年9月, 宇都宮大学)
 - 見学会(企業, 大学等)(2006年10月を予定)
 - 研究会(2006年12月を予定)
 - 精密工学会春季大会でのミーティング(2007年3月, 芝浦工業大学)(次年度分)
3. 知的ナノ計測に関するセミナー等を開催する
 - 精密工学会オーガナイズドセッション「知的精密計測」の企画・実施
2006年秋季大会 宇都宮大学
2007年春季大会 芝浦工業大学(次年度分)
 - 精密工学会シンポジウム「製造現場を支える形状計測」(メカノフォトニクス専門委員会と共同企画)2006年秋季大会(資料5-4)
 - 精密工学会誌2006年10月号の専門員会レビューの記事
4. 科学研究費「ナノスケール生産基盤におけるコア計測技術に関する企画調査」との連携(資料5-5)
 - 共同作業による調査研究
 - 2007年度科学研究費特定領域研究の新規発足研究領域の準備作業
5. ISMTII2007の準備活動(資料5-9)
 - ISMTII2007実行委員会(委員長:高偉先生)との共同による準備活動
6. 専門委員会の立上関連
 - 個人会員, 法人会員の勧誘:別紙勧誘予定リスト参照(資料5-6)
 - 勧誘用パンフレットの作成:データ等を収集中, 仮のものをホームページに掲載(資料5-7)
 - ホームページの作成(<http://www.nano.pe.u-tokyo.ac.jp/nanomeasure/>):すでに仮にオープンしている(資料5-8)
 - 事務局の整備(名簿の管理, メーリングリストの整備, 銀行口座の開設等)
 - 運営委員会の立ち上げ, 研究会および見学会などの詳細な計画および実施

平成18年度（2006年度）収支予算（案）

平成18年2月1日から平成19年1月31日まで

収 入		支 出	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
会費収入	590,000	人件費	30,000
個人会員会費	90,000	アルバイト料等	30,000
法人会員会費	500,000	出版費	0
特別会員会費	0	出版費	
補助金収入	0	会議・編集費	
雑収入	0	原稿料	
受取利息		事業費	270,000
懇親会参加費		調査・研究費	
その他		研究発表会・講演会費	
事業収入	0	工場見学会・セミナー費	
研究発表会・講演会		例会費	200,000
工場見学会・セミナー		国際会議費	
例会		企画費	
その他		講師謝金	
積立預金取崩収入	0	表彰費	
		資料費	
		什器・備品費	
		設備関連費	
		保守料	
		印刷・通信費	
		消耗品費	
		旅費・交通費	
		会議・会場費	
		総会費	50,000
		会告掲載料	
		雑費	20,000
		業務委託費	0
		本部（JSPE事務局）	
		外部	
		雑費	0
		特別事業費	200,000
		ISMT112007会議活動費	200,000
		積立預金支出	0
		予備費	90,000
当期収入合計（A）	590,000	当期支出合計（C）	590,000
前期繰越収支差額	0	当期収支差額（A-C）	0
収入合計（B）	590,000	次期繰越収支差額（B-C）	0

精密工学会 会長 殿

精密工学会専門委員会 2006 年度事業計画書

提出 平成 17 年 12 月 28 日

1. 専門委員会名 知的ナノ計測専門委員会		2. 委員長名 高増潔
3. 設置期間 2006 年 2 月より発足, 5 年間	4. 予定開催数(年回数) 4 回程度	5. 委員数(委員長、幹事含む) 30 名
6. 目的 <p>「ものづくり」を取り巻く環境, そして「ものづくり」そのものが急速に変化している。それにともない, 計測技術に対する要求も, これまでになく厳しく, 高度で, 多様なものとなってきており, さらには計測の役割そのものも変化しつつある。このような変化に対応するには, メゾスコピックからサブナノメートルのスケール領域の現象を利用した計測原理と技術的問題点の整理を既存の計測技術から将来的な可能性のある新技術まで, 広いスペクトルにわたって整理・体系化する必要がある。</p> <p>以上のことを解決するためには, 単なるナノスケールの計測技術を開発するだけでは不十分で, 知的なデータ処理やトレーサビリティおよび標準化を含めた技術開発が必要となる。これには, 産官学の共同研究により, 知的ナノスケール計測を「ものづくり」において活用するナノスケール生産基盤の体系化が不可欠となる。この分野において, 日本は基礎的な研究から産業的な応用において, 世界的なリーダーシップを持っている。そこで, 本研究会では以下の 4 つのコア計測技術に対する企画調査を産官学の共同で行い, この成果をナノスケール生産基盤として方向付けることで, この分野の日本の有利さをより拡大し, 精密工学の発展に寄与することを目指す。</p> <p>(1) 知的計測手法の基本的な技術を体系化し, これを産業界で応用する場合の方法を定式化する。 (2) ナノメートル加工計測技術に知的計測手法を応用するために最適な対象を調査する。 (3) ナノメートル計測の標準化により, 産業界にナノメートル領域のトレーサビリティを確立するための手法を検討する。 (4) 上記の 3 つの項目を踏まえて, 産業界において「ものづくり」へ知的ナノメートル計測技術を適用する手法について検討する。</p>		
7. 予期される結果 <p>「ものづくり」に対応したナノメートル計測技術のシーズおよびニーズを調査研究することで, この分野の体系化が行える。さらに, 上記の目的に従った研究を行うことで, この分野における産官学による研究の将来的な発展を期待できる。</p>		
8. 年度事業計画、実施方針(なるべく具体的に) <ul style="list-style-type: none"> ・年に 3~4 回程度の講演会および見学会を開催する。講演会では, テーマに添った講演と同時に国際会議や海外研究機関などの調査報告を行う。見学会として, 国内の先端的な研究機関の研究状況の見学を行う。 ・上記の 4 つのコア計測技術に関連する文献, 製品, 国際的な動向などを収集・分析し報告書を作成する。 ・精密工学会春季・秋季大会にてオーガナイズドセッションを企画する。 ・関連する国際会議を主催することで, 国際的な協力関係を推進する。 ・知的ナノメートル技術を推進する研究組織として, 科学技術研究費の特定領域研究の新規発足をを目指す。また, その他の研究費に対する共同研究計画を提案する。 ・研究成果をワークショップ, セミナー等で広く普及させる。 		

資料 5-2

精密工学会 事業部会長 殿

精密工学会分科会 成果報告書

平成18年 1月31日現在

1. 分科会名： 知的ナノ計測研究分科会
2. 設置期間： 平成16年 2月 1日 ～ 平成18年 1月31日
3. 主 査： 三好隆志 (幹事：高増潔 委員数 30 名)
4. 開 催 数： 8回
5. 成果概要：

知的ナノ計測研究分科会の目的は、「ものづくり」を取り巻く環境および「ものづくり」そのものの変化に対応した計測技術を、メソスコピックからサブナノメートルのスケール領域の現象を利用した計測原理と技術的問題点の整理を既存の計測技術から将来的な可能性のある新技術まで、広いスペクトルにわたって整理・体系化することである。この目的に従って、以下の調査研究を行った。

- (1) 研究会および見学会の実施：2年間で8回の研究会を実施し、知的ナノ計測技術の体系化における議論を行った。さらに、見学会として国内の企業および大学の研究施設を訪問し、知的ナノ計測技術に関連する研究状況の調査を行った。
- (2) 精密工学会大会におけるオーガナイズドセッションの実施：「知的精密計測」のオーガナイズドセッションを分科会メンバーを中心に実施した。このセッションでは、40件前後の発表が行われ、知的ナノ計測技術に関連する研究に対する議論が行われた。
- (3) 科学技術研究費の調査研究の申請：分科会メンバーを中心に、知的ナノ計測技術を推進する研究組織として、科学技術研究費の特定領域研究の新規発足を目指している。このための調査研究の申請を行った。
- (4) 国際会議の準備：2007年11月に仙台で開催される ISMTII2007 を、分科会メンバーを中心に実施するための準備活動を行った。多くのメンバーが関連する国際会議 (ISMTII2005, EUSPEN, ASPE など) に参加し、国際的な連携を行った。
- (5) 専門委員会の設置：分科会の成果をより発展するために、「知的ナノ計測専門委員会」の設置申請を行った。分科会メンバーを中心に来年度からは専門委員会として、より多角的な活動を行う。

以上の成果により、知的ナノ計測技術の整理・体系化がかなり行えたと考えている。この成果は講習会等で公開することを予定している。さらに、引き続き専門委員会にて上記成果を活かした研究を行う予定である。

6. 成果資料保管者連絡先

- 1) 氏名 高橋哲 (TEL 03-5841-6451)
- 2) 所属 東京大学大学院工学系研究科精密機械工学専攻
- 3) 住所：〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

7. 成果の公開予定について

- 1) 講習会等を行う 平成18年 11月頃の予定

精密工学会 知的ナノ計測専門委員会
特別講演会

主催：精密工学会 知的ナノ計測専門委員会
共催：科学研究費 ナノスケール生産基盤におけるコア計測技術に関する企画調査

この特別講演は、会員以外でも参加自由ですのでふるってご参加ください。（参加費無料）

日時 2006年6月16日（金） 15:00より
場所 東京大学本郷キャンパス 工学部2号館2階221講義室
特別講演会 16:00～18:00
「知的ナノ計測の将来」 清野慧（東北大学）
「ナノフォトニクスのもたらす光技術の質的変革と将来」 大津元一（東京大学）
懇親会 18:30 工学部2号館 2階展示室 参加費 3,000円（当日徴収）

16:00～17:00：

「知的ナノ計測の将来」

清野慧教授（東北大学大学院工学研究科）

近い将来、幾何形状の基準がない、実態がない、測定する意味がない、そんな世界が来るかもしれないという危惧があります。このように状況に際して、これをいかに克服するのが知的ナノ計測の重要な役目になると考えられます。以上のような背景を元に、知的ナノ計測の将来について大局的に展望します。



17:00～18:00

「ナノフォトニクスのもたらす光技術の質的変革と将来」

大津元一教授（東京大学大学院工学系研究科）

光技術の多機能化、大容量化は光の回折のために限界を迎えています。これを打破する革新技術が大津教授により1993年に提案されたナノフォトニクスです。講演ではその原理について概説し、次にナノ寸法の光デバイス、微細加工（リソグラフィなど）、システム（光ストレージ、光情報処理など）への応用を紹介します。特にマクロからナノへの寸法の「量的変革」ではなく、革新機能をもたらした「質的変革」の例を提示し、将来を展望します。また、最近活発化しているナノフォトニクスの技術開発をささえる人材育成についても触れます。



連絡先：東京大学大学院工学系研究科 精密機械工学専攻 高橋哲

Tel. 03-5841-6451, Fax. 03-5841-8554, E-mail: takahashi@nano.pe.u-tokyo.ac.jp

2006年度精密工学会秋季大会シンポジウム

「製造現場を支える形状計測」

企画：精密工学会 メカフotonics専門委員会，知的ナノ計測専門委員会

三次元形状計測は，大きなものは航空機，自動車等の1 M以上のものから，小さなものでは半導体パターンのナノメートルオーダーのものまで，実際の製造現場において使用され，無くてはならないものとなっている．今回は「製造現場を支える形状計測」をタイトルとし，光及び非光計測それぞれの方法を実際に行っている企業（主に宇都宮の近傍）から，最新動向のご講演をお願いする．また特に干渉形状計測に関しては，装置メーカーから最新製品技術のご講演をお願いする．

このシンポジウムを通じて形状計測に関する議論がさらに高まり，産業界の発展に貢献できること，及びに本分野に関わる開発・研究者の方々への情報交換の場となることを期待する．

開催日時 平成18年9月22日（金），10時00分～15時20分

会場 宇都宮大学 峰キャンパス 共通教育B棟1F1122室（秋季大会会場R室）

プログラム

司会 大谷幸利（東京農工大学），高村 繁（本田技術研究所），稲 秀樹（キヤノン）

時 間	講 演 題 目	講 師
10：00～10：30	1 特集にあたって 光，非光による形状計測	東京大学 高増 潔
10：30～11：00	2 製造現場を支える形状計測 (1) 四輪開発現場における形状計測の現状	本田技術研究所 梅津健太
11：00～11：30	(2) 日産の「モノづくり」を支えるデジタイザ適応技術	日産自動車 飯田 望
11：30～12：00	(3) ミットヨにおける製品群と今後の開発戦略	ミットヨ 阿部 誠
12：00～13：00	休憩	
13：00～13：20	(4) リソグラフィを支える形状計測 1) 非球面研磨とその計測	キヤノン 根岸真人
13：20～13：40	2) EUV絶対波面計測	EUVA 村上勝彦
13：40～14：00	3) 光CD計測器	KLA-TENCOR 加藤敦彦
14：00～14：20	(5) 干渉計による形状計測 製品特集 1) Wyko	日本ビーコ 秋本 壮一
14：20～14：40	2) オムニセンス	オムニセンス ジャパン 松田知足
14：40～15：00	3) 立山科学グループ	立山科学グループ 五十島一興
15：00～15：20	4) Zygo	キヤノンマーケティングジャパン 佐藤 敦

平成18年度科学研究費補助金交付申請書

平成18年4月24日

独立行政法人
日本学術振興会理事長 殿

所属研究機関の本部の 所在地及び名称	〒(113-8654) 東京都文京区本郷7-3-1		
所属研究機関の長の職名・氏名	職名 総長	氏名 小宮山 宏	職印
研究代表者の部局・職	部局 大学院工学系研究科		職 教授
フリガナ	タカマス キヨシ		
研究代表者の氏名	高増 潔		印

次のとおり研究を実施したいので、科学研究費補助金（基盤研究（C））の交付を申請します。

研究課題名	ナノスケール生産基盤におけるコア計測技術に関する企画調査						
補助金額 (交付予定額)	直接経費①		間接経費②		直接経費と間接経費の合計(①+②)	分担金の有無	
	3,400,000 円		0 円		3,400,000 円	無	
	直接経費の 費目別内訳	物品費 200,000 円	旅費 1,000,000 円	謝金等 700,000 円	その他 1,500,000 円		
研究組織	研究者番号	機関番号	所属番号	職番号	役割分担等 〔本年度の研究実施計画に対する分 担事項等を具体的に記入すること。〕	エフオ ート (%)	直接経費(分 担金の研究者 別内訳)(円)
	氏名	所属研究機関・部局・職					
研究代表者	70154896	1260188520	東京大学・大学院工学系研究科・教授			10	3,400,000
研究者 分担	00002048	1440188520	グループ2 (ナノメートル加工計測技術研究) : プロジェクトリーダー			5	0
	三好 隆志	大阪大学・大学院工学研究科・教授					
	40005468	1130188520	グループ1 (知的計測技術研究) : プロジェクトリーダー			5	0
	清野 慧	東北大学・大学院工学研究科・教授					
	90219668	3261240320	グループ4 (ものづくりへの展開研究) : プロジェクトリーダー			5	
	三井 公之	慶應義塾大学・理工学部・教授					
	70243178	1440188520	グループ2 (ナノメートル加工計測技術研究) : プロジェクトリーダー			5	
	高谷 裕浩	大阪大学・大学院工学研究科・教授					
70270816	1130188521	グループ1 (知的計測技術研究) : プロジェクトリーダー			5		
高 偉	東北大学・大学院工学研究科・助教授						
20357362	8262699924	グループ3 (ナノメートル計測標準研究) : プロジェクトリーダー			5		
高辻 利之	産業技術総合研究所・計測標準研究部門・室長						
30283724	1260188521	グループ4 (ものづくりへの展開研究) : プロジェクトリーダー			5		
高橋 哲	東京大学・大学院工学系研究科・助教授						
80170702	1260892920	グループ1 (知的計測技術研究)			5		
笹島 和幸	東京工業大学・大学院情報理工学研究科・教授						
研究者合計 (小計)	9 名				直接経費合計 (小計)	3,400,000	
キーワード	①計測工学	②ナノメートル計測	③機械工学・生産工学	④超精密計測	⑤三次元計測		
機関番号	12601	研究種目	基盤研究 (C)		課題番号	18636002	

研究の目的

現在、「ものづくり」における計測技術は、深い基礎の掘り下げと広範な応用分野への柔軟な適用性の両面で大きなブレイクスルーが求められている。これを解決するためには、単なるナノスケールの計測技術を開発するだけでは不十分で、知的なデータ処理やトレーサビリティおよび標準化を含めた技術開発が必要となる。これには、産官学の共同研究により、知的ナノスケール計測を「ものづくり」において活用するナノスケール生産基盤の体系化が不可欠となる。この分野において、日本は基礎的な研究から産業的な応用において、世界的なリーダーシップを持っている。そこで、コア計測技術（知的ナノスケール計測技術）に対する企画調査を産官学の共同で行い、この成果をナノスケール生産基盤として方向付けることで、この分野の日本の有利さをより拡大することが可能である。

この企画調査研究は、特定領域研究の新規発足研究領域として応募するための準備調査であり、本企画調査の分担者以外の関連研究者も広く含めて、平成19年度よりただちに特定領域研究を始めることを目指す。

本年度（～平成19年3月31日）の研究実施計画

知的ナノメートル計測を進展させ、ナノスケール生産基盤として日本の産業における「ものづくり」への適用を考えるためには、4つのコア計測技術における課題解決のための共同研究が必要となる。本企画調査では、これらの課題解決を目的とした特定領域研究設置のための調査研究を行う。以下のような4つのグループを作り、調査研究を行う。（担当は研究分担者リストを参照）

(1) 知的計測技術研究グループ（プロジェクトリーダー：清野，高）

知的計測手法の基本的な技術を体系化し、これを産業界で応用する場合の方法を定式化する。

(2) ナノメートル加工計測技術研究グループ（プロジェクトリーダー：三好，高谷）

ナノメートル加工計測技術に知的計測手法を応用するために最適な対象を調査する。

(3) ナノメートル計測標準研究グループ（プロジェクトリーダー：高増，高辻）

ナノメートル計測の標準化により、産業界にナノメートル領域のトレーサビリティを確立するための方法を検討する。

(4) ものづくりへの展開研究グループ（プロジェクトリーダー：三井，高橋）

本組織の母体となる精密工学会知的ナノ計測専門委員会の産業界からのメンバー（10社～20社程度）を研究協力者として、産業界におけるものづくりへ知的ナノメートル計測技術を適用する手法について検討する。

このような連携活動を有効的、効率的に行うために、上記専門委員会の活動を支援し連携して調査研究を行う。また、関連する国際会議 ISMTII 2007（2007年9月実施）を支援することで、国際的な連携、動向調査を行う。このためにインターネットおよびホームページを有効に利用した情報収集、および国際的な情報発信やメールや郵送を利用した情報収集を行う。これらの連携、研究、調査の結果を特定領域研究の新規発足研究領域の準備に利用する。

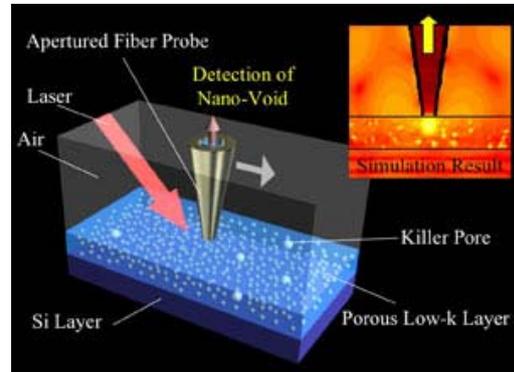
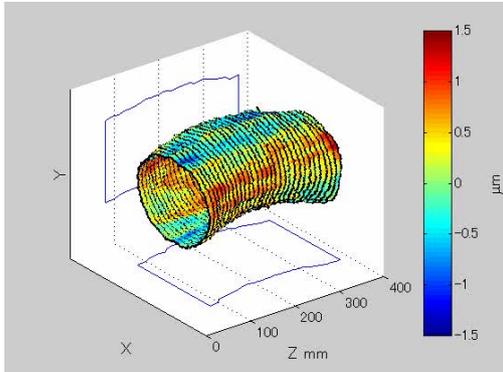
主要な設備備品の内訳（1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの）

品名	仕様 (製造会社名・型)	数量	単価 (円)	金額 (円)	納入予定時期
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月

精密工学会 知的ナノ計測専門委員会

ナノスケールの知的計測の確立を目指して
Technology for Intelligent Measurement with Nanoscale

<http://www.nano.pe.u-tokyo.ac.jp/nanomeasure/>



知的なナノメートルオーダーの計測を「ものづくり」へ利用するためには、産官学の協力による計測技術の体系化が必要となります。精密工学会は、この分野における世界的なリーダーシップを持っています。そこで、精密工学会に新しい専門委員会として「知的ナノ計測専門委員会」を設置して、以下のような目的と活動方針に添った、研究を行いたいと考えています。

ぜひ、広い分野からの参加をお願いいたします。

メンバー（予定、依頼中）

委員長： 高増潔（東京大学）

顧問： 清野慧（東北大学），三好隆志（大阪大学），沢辺雅二（ミットヨ）
下河辺明（東京工業大学）

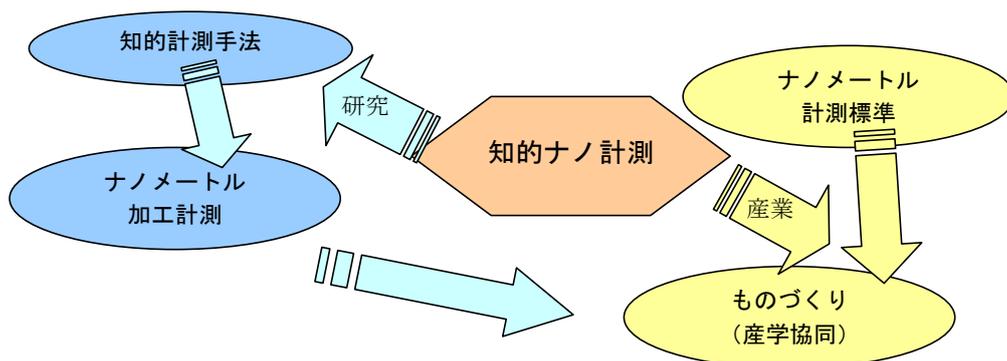
幹事： 高谷裕浩（大阪大学），高偉（東北大学），笹島和幸（東京工業大学）
高辻利之（産業技術総合研究所），古谷涼秋（東京電機大学），高橋哲（東京大学）

会計監事： 林亮（ナノ）

事務局： 高橋哲（東京大学）

年会費： 個人会員：3,000 円，法人会員：50,000 円

（注）法人税法基本通達 9-7-15-3 による損益勘定として損金に算入することができます。



専門委員会の目的

「ものづくり」のための計測技術の体系化のためには、単なるナノスケールの計測技術を開発するだけでは不十分で、知的なデータ処理やトレーサビリティおよび標準化を含めた技術開発が必要となります。これには、産官学の共同研究により、知的ナノスケール計測を「ものづくり」において活用するナノスケール生産基盤の体系化が不可欠となると考えます。以下の4つのコア計測技術（知的ナノスケール計測技術）に対する研究を産官学の共同で行い、この成果をナノスケール生産基盤として方向付けることで、この分野の日本の有利さをより拡大し、精密工学の発展に寄与することを目指します。

- (1) 知的計測手法の基本的な技術を体系化し、これを産業界で応用する場合の方法を定式化する。
- (2) ナノメートル加工計測技術に知的計測手法を応用するために、対象および手法を確立する。
- (3) ナノメートル計測の標準化により、産業界にナノメートル領域のトレーサビリティを確立するための手法を検討する。
- (4) 上記の3つの項目を踏まえて、産業界において「ものづくり」へ知的ナノメートル計測技術を適用する手法について検討する。

活動内容

- ・ 講演会および見学会を開催する。講演会では、テーマに添った講演と同時に国際会議や海外研究機関などの調査報告を行う。見学会として、先端的な研究機関の研究状況の見学を行う。
- ・ 上記の4つのコア計測技術に関連する文献、製品、国際的な動向などを収集・分析し報告書を作成する。
- ・ 精密工学会春季・秋季大会にてオーガナイズドセッションを企画する。
- ・ 関連する国際会議（ISMTII2007）を主催することで、国際的な協力関係を推進する。
- ・ 知的ナノメートル技術を推進する研究組織として、科学技術研究費の特定領域研究の新規発足をを目指す。また、その他の研究費に対する共同研究計画を提案する。
- ・ 研究成果をワークショップ、セミナー等で広く普及させる。

参加申し込み

以下の内容を、メール、ファックスで事務局までお送りください。

貴社名、委員名（ふりがな）、部署・役職、住所、電話番号、FAX 番号、e-mail アドレス

事務局：（参加希望者はメールで連絡してください）

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学大学院工学系研究科精密機械工学専攻 高橋哲
Tel. 03-5841-6451, Fax. 03-5841-8554, E-mail: takahashi@nano.pe.u-tokyo.ac.jp

